みいけ

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人　杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946—005

公判お知らせ

三池大災害裁判公判
七月八日午後一時から、福岡地方裁判所で。(37回)

坑内火災裁判公判
七月九日午後一時から、同右裁判所で。(44回)

護憲・反核・平和 非武装・大講演会

とき　六月十八日(金)午後五時三十分
ところ　大牟田市民会館ホール
講師　社会党副委員長　石橋政嗣氏　ほか

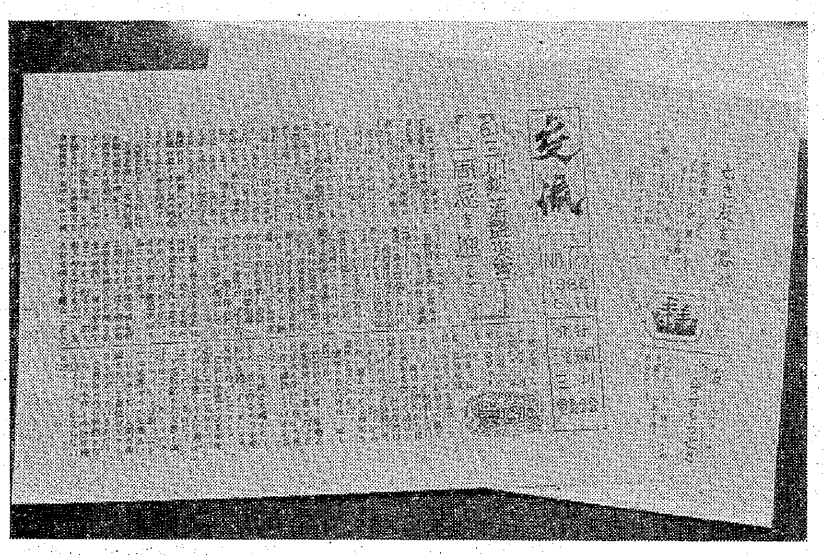
6.11 三川鉱落盤災害

『生きていてくれ』と祈ったあの日

あれから一年

昨年の六月十一日三川鉱での落盤災害で、六人の仲間の命が奪われてから早くも一周忌を迎えました。十八分会(三川・内電・早田正次分会長)では、毎月十一日に職場新聞『交流』を発行して、抗議と原因・責任追及に取り組んできました。発行された六月十一日号では、この災害を特集しており、二度と災害を起こさせないという決意がひしひしと伝わってきます。【関連記事二面に】

昨年六月十一日、会社の生産優先、保安無視の生産計画、作業指示によって、一挙に六人の仲間が殺されて早くも一周忌を迎えた。



昨年の災害いらい毎月11日に発行をつづけ、災害告発をつづけている転場新聞「交流」。2面にわたる全面特集を行つた。

私たちは、あの日のことを絶対に忘れられない。

この下に仲間が埋まっているのかと、ペンチをシャベルに持ちかえて、泣きながら懸命に救出にあたったことを。絶望とは思えどもどうしてもそうは思いたくなく、『絶対に生きているんだ』と自分に言い聞かせながら、『生きていてくれ』と祈りながら、昇坑を今か今かと坑口で徹夜したことを。涙をボロボロ流しながら、変り果てた姿で昇坑した仲間を迎えたことを。そして葬儀の日、両腕にかかった柩の重さは、友の無念さをしみじみと伝えていたことを。

災害を起こした会社は、災害直後に災害現場の取り明けを中止して、災害原因をゴマ化してしまった。また、三川鉱の坑外でPC原動機吊り上げ実験を行い、災害原因を原動機吊り上げのみにしぼろうとたくらんだ。

監督局と警察は昨年のうちにそれぞれ地検へ書類送検をしたが、それは現場の責任追及のみに終わり、最高責任者である鉱長らはまんまと法的責任をのがれた。

このような片手落ちな処置は黙認できないと、三池労組は五月十日、鉱長を地検に告発した。

災害後の保安状況はどうか。昨年八月三日、六十六卸九片での大崩落、十月二十一日、六十六卸でのマイト誤爆、十一月二十五日、三百八十メートル坑道での人車対炭車の衝突、今年になり保安指導に当たるべき係員が、足を折られたり顔を砕かれたりする災害が続出している。

落盤災害の反省は会社にはなく逆に災害による減産分を取りもどすためのハッパさえかけた。それが災害の続出を引き起こしたのだ。会社の自主保安は災害を招くものだ。働く者の自主保安は保安の不備を会社に抗議し、保安要求することから始まり、働く者の命を守るものだ。真の自主保安を確立しよう。

6.11 災害ドキュメント

1981年6月3日　三池炭鉱が明治6年官営炭鉱としてスタートしてから、初めて「死亡事故ゼロ1年」を記録した。

6月11日　午後3時25分ごろ、三川鉱の本層西70卸東5片向い坑道で、原動機据え付け中落盤。推定500トンの岩石が落下、吉田哲郎さんをはじめ山本さん、宮永さん、村島さん、村上さん、米田さんら6人が即死。

6月13日　荒尾市民体育館で合同葬。終了後、三池労組は会社幹部に抗議。この席で会社は「対策が不十分だった」「防げえた災害だった」と答える

6月15日　保安団交開催。会社の責任を追及するとともに、断層、軟弱盤、出水、重量物吊り上げなどの対策の不十分さを指摘、「保安確立」を要求した。

6月18日　会社は「監督局、警察も現場調査したが、現場は第2次災害の恐れがあり、原因調査のための〝取り明け〟を断念する」と三池労組に申し入れた。

8月22日　三川鉱坑外の模擬坑道で「重量物吊り上げによる角目枠のたわみ」を実験。

8月26日　三池労組は「たわみ実験は誤解を与える」として全般的な原因究明を福岡鉱山保安監督局に要請。

12月8日　福岡県警は大宝施設係長、中西主席係員、故山本係員を書類送検。

12月22日　福岡鉱山保安監督局は酒寄採鉱副長、杉野主席係員、大宝係長、故山本係員を書類送検。

1982年1月7日　三池労組は福岡鉱山保安監督局に書類送検での見解をただす。

5月10日　三池労組は業務上過失致死の責任は免れないとして、野口幸光三川鉱長を福岡地方検察庁に告発。

またも三川鉱で 異状出水

三川鉱(野口幸光鉱長)第二上層七十卸東一片払で、六月二日二番方で突然異状出水がありました。

調査によると出水量は毎分二・五トンということですが、払面からと払跡からの出水はいぜん続き、払口で集水しポンプ九台、さらに片盤坑道にポンプを設置揚水していますが、出水量が増える傾向にあり、坑道は水のためにえぐられ、保坑工事も追いつけない状況だといわれます。

この出水によってコンベアも思うように運転できず、動枠移設なども進まないため、一方で一カットから一カット半の払の進行となっています。

三川鉱では、三月二日に同じ七十卸西三片の密閉箇所で湧水が増加によって遮断箇所が破壊され、作業員全員に待避指令が出されましたが、この水脈となんらかの関係があると見られています。

今のところ会社は、非常出水ではないとして作業を続けていますが、組合では現場の点検を行ない、三川鉱に対して保安上の問題点を指摘、早急に対策をたてるよう申し入れを行ないました。

夕張新鉱で 重大災害

大沢管財人のもとで更生計画が行なわれている北炭夕張新炭鉱で、六月九日午前九時半ごろ海面下七百四十メートルの西第二連絡斜坑巻き立て地点で、下請け会社の田子内組の鈴切勝さん(四十五歳)が左胸部変形で内臓破裂のため死亡されました。

原因などは調査中であり不明ですが、作業途中コールピックを取りに行く途中の事故で、小型捲き上げ機の下敷きになった模様で、倒れているのを同僚に発見されました。

この災害で今年に入ってからの炭鉱での死亡者は八人となりました。犠牲となられた鈴切さんに心から哀悼の意を捧げるとともに会社に対し強く抗議します。

昨年実績めざし 夏季一時金闘争へ

民間組合のほとんどの単産では夏季一時金要求の提出を終え、六月中旬から七月初旬をかけて交渉のヤマ場を迎えようとしています。

要求内容はほぼ昨年同様のところが多く、年間協定では五カ月から六カ月、半期要求では二・五カ月から四カ月の間で、平均しておよそ三カ月分です。

したがって昨年実績を確保し、どう上積みするかが夏季一時金闘争の焦点になっています。

炭労は、七月十二、十三日の二日間、定期大会を開き要求額を決定し、大会終了後ただちに要求書を提出。七月下旬に解決のメドをおき、八月上旬の支払いをめざします。

政策闘争で炭労が中央行動

北炭夕張新鉱の再建を中心とした「八二政策闘争・第三次中央行動」が六月七、八日の二日間にわたって行なわれました。この行動では通産省、北炭グループ、管財人、石炭各社などへの要請・抗議行動が組まれ、三池労組からは立山組織部員が参加しました。

定期総会と改選までの日程

6月27日　行動方針、予算、決算、規約改正案を提起。大衆討議へ。
7月18日　各案についての集約。
25日　定期総会。
26日　選管発足。
27日　告示。
30日　投票。
31日　開票。
8月1日　機関構成。

地底

▼…春闘がおわって夏の一時金闘争の開始。そして季節はうっとうしい梅雨。この間大切なのは第一に健康だが、体も心も憂りがちとなるのも避けられそうもない。ハナシヨーブ、アジサイなどせめてものなぐさめとなるか。

▼…戦後最大の疑獄、ロッキード事件の全日空ルートの橋本、佐藤に有罪判決が下った。当然のことながら、議員を辞め、喚問に応じ、政治的・道義的責任をとるべきだ。執行猶予がついたのは甘いが、二階堂、加藤、田中へのワイロが認められたことは、鈴・角体制に痛撃を与えた。この機に金権腐敗の大掃除が不可欠だ。

▼…うなぎのぼりにふくれ上がって五億九千万の巨費を投じた知事公舎。その背景が不鮮明。ケヤキ一本六十万円、私邸の調度品が県費となると県民は納得しない。公金流用といわれても弁明の余地なし。果たして潔白の証明ができるかどうか。ピンの政治家からキリの政治家までが群がる汚職構造の根を絶たねばならぬ。

▼…〝日本国民の核廃絶と平和への願いを強く訴える〟と、鈴木首相は国連軍縮特別総会でのべた。しかし軍縮は〝均衡の水準を少しずつ下げる〟といい「力の均衡」論の域を出なかった。「核兵器使用禁止決議」にどういう態度をとるのか、美辞麗句のわりには鮮明ではなく、日本の軍拡・核基地化にも黙してふれなかった。

▼…三川鉱落盤事故から一年が経った。この間にも北炭夕張新鉱の災害をはじめ炭鉱災害は後を絶たない。三池でも一人の死亡災害を出し、多くの重傷者も出している。十一日三川鉱は関連職種の祈願祭を実施したが〝誓い新たに〟が〝死者への鎮魂〟だけにおわらず「再び重大事故は起こさない」という具象とならねばなるまい。